

第4回南牧村小中学校建設検討委員会 議事録

日時 平成29年9月5日(火曜日)午後7時00分開会

場所 南牧村中央公民館大会議室

議事日程

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 討議
 - ①佐久穂小・中学校視察の感想
 - ②南牧村における小中一貫教育の姿
 - ③学校建設地、建設時期について
- 4 その他
- 5 閉 会

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

会議出席委員

嶋崎 稔夫 井出 松久 新海 昇 片桐 勝則 高見澤 俊彦 高見澤 正洋 新海 文人
井出 邦彦 高見澤 みち子 高見澤 ふみ子 矢野 勝彦 水澤 良光 井出 正吉
新海 勝則 渡邊 忠一郎 井出 昭彦 井出 将光 薩田 美穂 高見澤 眞
高見澤 美夏 上村 和加子 今井 澄江 新海 一禎 輿水 昌代 松山 幸代 湯浅 麗
江川 尚友 井出 永一 輿石 剛 嶋崎 一尚 井出 實 井出 泉 渡邊 壽美 林 崇介
以上 34 名

欠席 13 名 菊池今朝造 武井 晃 菊池 武元 新海 秀幸 坪井 則男
天川 千保香 岡田 加佳 菊池 俊志 高見澤 俊彰 宮下 博満
湯浅 夏美 高見澤 臣美 板山 笑子

事務局職員出席者

総務課 課長 津金 初男 企画係 有坂 恭祐
教育委員会 教育長 井出 英夫 教育次長 井出 浩美 学校教育係長 井出 一生
今井 征弥

傍聴人

無し

開会 午後7時03分

◎開会

事務局井出次長 みなさんこんばんは。会議を開会させていただきます。それでは開会のことばを林副会長お願いします。

林崇介 副会長 皆様こんばんは。先日の佐久穂小中学校の見学に際しましては、行かれた方はお疲れ様でした。ありがとうございました。それでは、多少一致してきたことございますので、今日は是非、熱心なご議論をお願いします。開会いたします。

◎会長あいさつ

事務局井出次長 渡邊会長、ご挨拶をお願いします。

渡邊壽美 会長 みなさん、あらためましてこんばんわ。お忙しい中をおいでいただきましてありがとうございます。7月に委員会がありまして、8月28日に視察に行ってきたわけではありますが、小中一貫校の姿、素晴らしい校舎等も拝見いたしました。そんな中で佐久穂小中の感想を聞いたり、小中一貫校の姿、そしていよいよ3番目に建設場所とか時期なども話し合っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

◎討議

事務局井出次長 それではこれから討議の進行は、渡邊会長の進行でお願いします。

渡邊会長 それでは①の視察の感想ということで、20人参加されたわけですが、参加された人から感想をお願いします。

事務局井出次長 会長、お願いします。お手元の配布した資料の1ページ目に、視察に出された質問と回答というものがありますので、これはテープお越ししたものから概略をまとめさせていただきました。この1・2ページについて解説させていただきます。何かの委員さんからご質問をいただきました。最初に井出教育長からの質問でございますが、教科担任制、乗り入れ授業ということを伺っています。1年毎に重点目標が違うということの説明ですが、教職員の異動があつて、その年により教員の考え方、保有している免許の違いがあるので、具体的には家庭科、算数、理科、体育を行っているが、乗り入れ授業ですので、中学校の先生が小学校へ行って授業を行うということですが、当日は教科担任制という表現をされていましたが、実際は括弧に書いてあるように中学の先生が小学校へ行って小学校の先生と一緒に教える乗り入れ授業とTT指導、チームティーティングといいますがそのことのようにです。正規の中学校の職員が行うことは難しいので県費や町費の講師の先生が行っているということでありました。

次に新海一禎委員さんから3点ありました。1点目は、学年の区分けということですが、例えば4-3-2がいいと思うと新海委員さんが言っていますが、これは義務教育学校でしかできないと思っていたが佐久穂のような小中一貫型でもできるのかという質問です。それに対して、施設一体型の小中一貫であれば、義務教育学校であっても小中一貫型であってもできるということではありますが、これについて少し解説させていただきます。

すと、別の資料カラーコピーの佐久穂教育というのをご覧ください。これは当日現地でもいただいたもので、佐久穂町教育委員会が3年目になります小中一貫教育についてまとめたものです。1ページ目が教育の3本柱ということで小中一貫教育と、写真にあります英語教育、キャリア教育というのはチェンソーを使った体験している写真があります。1枚めくっていただき見開きのページで、最初は小中一貫教育。知、徳、体、情を育むということで縦の矢印が上を向いていて1年生から9年生までありますが、1年から4年で丸、5年から7年で丸、8年9年で丸。これが例えばでいう4-3-2のシステムになっているわけでありまして。しかし佐久穂小中は小中一貫型でありまして、それぞれ小学校、中学校の独立したものを施設一体型で行っていますので、6-3制というのは変えることはできませんが、運営で4-3-2というのを意識して行う。右のページの英語教育ではホップ、ステップ、ジャンプというふうに4-3-2の区分けで行っているということがあります。後ろのページは、キャリア教育、括弧ふるさと学習ということで職業体験や森林学習をふるさと学習の柱に据えて4年生から8年生で森林学習の体験学習を行うというものでありました。資料に戻ります。新海委員さんの2番目の問いですが、中学生の精神年齢について、小中一貫だと中学生が幼稚化するとか、小中終わって高校行ってから高1ギャップというものが発生するんじゃないかという質問でございます。答えとしますと、小学生が幼いまま中学生になる、小学6年生が成長しないというような意見もあったが、小6では卒業式、中学校へ入って入学式があり、また児童会、生徒会も別組織であり、中1で制服の切替えがあり全く小学校と中学校は別の物。そして終了した者が高校へ行って挫折をしているという話は聞いたことがないとの答えでした。次に3番目の質問ですが、部活動に5・6年のカテゴリーということですが、カテゴリーというのは分類という意味だと思いますが、小学校のうちに部活動ができるのかということですが、小学から部活動に参加しているという事例は他の学校ではありますが、佐久穂においては部活動は1年生から実施しているということで、小学校のうちに見学したりして、当然憧れや興味はあるだろうということでした。

次に、江川委員さんからの質問でございます。佐久穂町は小中一貫型だが、将来義務教育学校に移行するのかというご質問でありました。佐藤先生は、教育長が言うには現状のまま行くと予測しているという答えでありました。義務教育学校に移行するには、教員の負担増の問題や免許制度の課題があつて、具体的には信濃小中学校を参考にされたいとのことでありました。

次に林副会長からの質問で、地域における学校サポートの様子を伺いたいということですが、佐久穂小中学校では学校応援団というのを結成して、総数では160人という大変大きなものですが、具体的には登下校の見守りや本の読み聞かせ、登山等の行事の際に随行していただいたり学習支援に入らせていただくというものです。一番下の行にありますが、結果として、地域の力が一つになって自分たちの学校を担う、育てるの意識が結集したと言われましたが、少し力を入れて言わせていただきますが、前回のこの委員

会で北小の矢野校長から、小中一貫学校になると地域の力が一つになるという、同じようなことを力強くおっしゃっていましたが、同じことがここで聞かれるとは思っていなかったのが感動したところでもあります。私の思いはどうでもいいんですが、2ページをお願いします。小澤係長から補足がございまして、この統合後3年間は県から加配の配置があるので、加配の先生が摺合せや学校応援団を行って、また教員組織全体で摺合せを統合前から行ったと。その中で多かった課題は、スクールバスによる通学手段、どちら側に停まるとかの細かい面の話が多かったということでございます。

次に上村委員さんからのご質問は、ずばり、建設地を決定する過程はというご質問であります。学校づくり委員会で、場所は茂来館付近が好ましいという答申、提言をされたそうです。但し、その後、行政サイドで検討する中で、茂来館付近は住居が離れていたり、送電線があるという課題があったので、現状の佐久中学校付近に変更したということでした。

次に今井委員さんからは、スクールバス通学の最長時間はどのくらいかという質問でしたが、概ね30分くらいということでした。次の質問は、小中一貫でよかった点、たいへんだった点には対して、答えは、小学校の統合に子ども達が馴染めるのか、あるいは中学生と一緒にいられるのか心配だったということですが、統合前に全教員による教育計画づくりや合同行事の実施、同じテストを行ったり、一緒に遊ぶ。中学校では部活動を一緒に練習したり、教育委員会では小中一貫だよりを月2回発行したりして馴染むとか同じ方向に向かって行ったということです。

最後にまとめとして小澤係長が申されたのは、この統合となる学校、新しい小中一貫教育に対して保護者から苦情やクレームがあったかということ、全く聞いていない、無かったということでもあります。また、児童生徒の様子で、小中学生が一緒にいることでのトラブルも聞いていないとのこと。それから小学校から中学校への切り替えができない、さきほど小学校6年生が成長しないという話もありましたが、そういうことへの保護者からの心配も聞いていないとのことでございます。それぞれ小学生、中学生が自覚を持ちながら、それぞれがいい関係で存在できているとのことでありました。以上が視察の際に出された質問と回答であります。この後さらに感想等述べていただきたいと思っております。以上です。

渡邊会長 6名の方が視察先で質問されましたが、今事務局から説明がありました。では感想をお願いします。南小PTA会長新海さん。

新海一禎 委員 視察は、かなり勉強になりました。感想としては、行ってよかったと。ではこの建設委員会が何をしなくちゃいけないかと考えた時に、中身、いじめとかどういうシステムにしたらいいかというのは、学校を作るのは決まっているから、まず入れ物を作って、その後検討していても間に合うのかと。今私たちが考えなければいけないことは、どこに作るか、どのくらいの規模のものを作るかってことをまず決めて、その後大事なことを決めていかなければいけないかなと。だからハードウェアをまず整えて、

ソフトウェアをそのあとみっちり考えて行った方がいいのかと感じました。

渡邊会長 はい、ありがとうございます。②でも南牧村の小中一貫教育の姿ということ今日ありますのでそちらでもお願いしたいと思います。

新海一禎 委員 もう一点お願いします。あと思ったのが、中身をこれからよくしていく部分で、もっと保育園の保護者も含めて細かい親切な説明会を是非やっていただきたい。佐久穂の例でも、前もらった整備事業の概要を見ますと、在り方委員会平成20年で、契約締結平成23年、引き渡し平成27年、それだけの年月かかっているんです。例えば南牧村でやるとなると、結局、今年か来年候補地決めて設計委託します。実際建てるとなると規模にもよりますけれど、たぶん4・5年かかるだろうと。だから4・5年入る人達の保護者、そういう人たちも含めて、どんな学校がいいのかなど。そんな人たちも含めて、将来私の孫が入るかもしれない、そういうことも含めて、年齢層を問わず説明会と意見集約を並行してやっていただきたいと感じました。

渡邊会長 ほかに。江川さん。

江川尚友 委員 ほんとに去年見学されている方ある中で、こうやって見学させてもらってありがたいと思うんですけども、佐久穂町でも丁寧に順番に課題を解決して、あれだけ立派なものが出来上がったんだと実感してよく分かりました。新海さん言われたように、以前いただいた資料のこれまでの佐久穂町の経過を見せていただいて、平成22年に保護者懇談会と所有者説明会があって、その後、町の方向性が議会で決められて、それからようやく平成22年9月に小中学校建設検討委員会が教職員と公募など計24名で組織されたと書いてあって、ここから一気に、八千穂小学校の統合があったりして形ができてきたようなんですけれども、私達はすでに小中学校建設検討委員会というのやっていますけれども、まだ施設が分離型なのか隣接なのか一体型なのか、義務教育学校なのか一貫型なのか私たちがまだ考えなきゃいけない課題があるので、今から逆戻りはできないと思うんですけども、たいへんなのかもしれないけれども、もう少し懇談会なり説明会なりというのが事前にあって、形も検討できるかなというのを感じました。

渡邊会長 ほかに。

今井澄江 委員 北小PTAの今井です。忙しい中、見学の機会を作っていただきありがとうございます。子ども達のいる時間帯に見せていただいたということで、学校の雰囲気を感じることができて勉強になりました。見学に行くまでは小中一貫の中でも義務教育学校のがいいのかなと思っていましたが、佐久穂のお話では、義務教育学校よりも一体型の一貫校のがいいって話が、すごく印象的だったんですけども、先生方の区切りの問題だったりとか、南牧よりだいぶ規模が違いますので、南牧にはどっちがあっているかというのを南牧村の特色を生かしながら考えていけたらいいなと感じました。

渡邊会長 どうもありがとうございました。

上村和加子 委員 北小上村です。先日はありがとうございました。行く前は、小学生と中

学生と一緒に生活するのってどうなんだろうなと思いました。中学生が勢いがある、小学生が小さくなるわけではないんだけど、ごちゃごちゃしているのかなと勝手なイメージがあって、行って見たら学校の中でもしっかり別れていて、子ども達も落ち着いて生活していたし、一回見ておいてよかったなと感じました。佐久穂の統合するまでどうやって合わせていくかだとか、子ども達の生活が変わってびっくりしないようにとか物事の進め方が私達も参考になったと思うので、上手く生かしていけたらなと思いました。

渡邊会長 ありがとうございます。ほかに。

高見澤真 委員 北小PTA役員の高見澤です。先日は本当にいい機会を作っていただきまして、私自身も勉強になりました。感想を述べる前に前段としまして、佐久穂のPTA役員の方が2名ほどありまして、何かいいところ、悪いところありますかと、私なりにリサーチをして行きました。その中で不満というか課題ということについては、ほとんどがハード面のことでした。例えば中庭に結構なお金をかけ過ぎただとか、校庭が非常に広いですけども暑いというところで日影がもう少し欲しかったとか、中に入らせてもらったんですけども、トイレが自動で人感センサーで明かりがついて、流れるのもショッピングセンターみたいに自動で水が流れる。そういったことに慣れ過ぎてしまって、自宅に帰って電気を消し忘れたり、トイレ流すのを忘れてしまったりというところがある。そういったことがほとんどでした。逆にいい面はというと、今までいくつか意見が出たとおり、いじめだとかギャップの問題だとかは、むしろ先生方に感謝をしているみたいです。今回の説明を聞いて思ったのは、佐久穂の場合、計画立案のところから先生方が、学校が終わってからとか集まっていたいただいて協議をしていただいた。保護者は先生方に非常に感謝しているというのは、皆さん口を揃えて言っているとおっしゃっていました。是非そういうところも合わせて見て来てくださいというところで、私なりに見た視察となりました。聞いていたとおり、例えば小学生と中学生のギャップというのは、中学3年生の教室の前通ったんですが、本当に3年生らしいと思いました。やはり私達親として心配になるのは、その先高校に行ってからとか社会人になった時に、私達に想像もできないくらい荒波が強くなると思うんですよね。その中で耐えられるようになってもらいたいと皆さんお思いだと思うんですけども、大きなマンモス学校の中でもそういった礼儀ができていたなと感じました。英語の授業を見させていただいた時に、一緒に教室に入った役員さんもおっしゃってたんですけども、テーブル感覚でやる授業だったんですけど、本当に全員が参加していて、みんなが集中して先生を見ている、南牧でもこういった授業が欲しいなと思いました。そういった場面を見れたのも収穫だと思いました。

ハード面については、子ども達の将来の可能性だとか、広い選択肢で考えていけたらいいんじゃないかと思いました。例えば、体育館は小学校と中学校は別の方がいいとか、プールは深さの制約があるので別々のがいいとか、部活の関係もあるので対応できるようなハードのいいと感じました。今回、小中一貫の中で義務教育学校がいいのかどう

なのかというところは、私は前に中学校の校長の話にあったように、この村の教育に詳しいのは学校の先生だと思うんです。そういったプロの先生方を交えた中で、先生方の意見も組み入れながらやっていくのがいいと感じました。

渡邊会長 はい、ありがとうございます。ほかに。教育長。

井出教育長 お忙しい中、多くの方ご出席いただいてありがとうございます。南小のPTA会長さんはじめ、それぞれの方、視察で質問した以外にも意見をいただいていた感想をありがとうございました。新海会長さんから、ソフトよりもハードの方を進めたらいいんじゃないかと意見も出ています。江川さんからも施設の関係がありました。今井さんからは小中一貫の関係、義務教育学校と小中一貫型学校がよく分かったと。上村さんや高見澤さんからもご意見がありまして、私達は去年一年間、かなりの回数で審議を深めてまいりました。新たに委員になられた方は、なかなか今までの経過が分からなくてご負担があったかと思っています。ハード面を先に進めていくには教育の方法、義務教育と小中一貫は似たようなものですから、その中で考えていけばいいものですが、次には小中一貫で行くと決まってくれば、だんだんその中で流れて行くものと思います。これを深めていくには、当然学校の先生も入ったプロの皆さん、それからこれから子ども達が上がってくる保護者の皆さん交えて、どういう教育の方法がいいのかを深めていくべきだと思います。佐久穂の例が出ましたが、小中一貫で行くと出ると教育委員会としては、だいたいのスケジュールが見えてくると先生達に入ってもらって、小学校の交流とかゴールに向かっていけると思っています。この会議はハード面についてこれからまとめていただく、それから今度はどこに建てるのかという話になっていく。それを先にやっていけたらいいと考えています。まとまりませんが次第の②番にあるような、今皆さんの考えを聞きますと、小中一貫のいいかという声が多い気がします。会長の方で、前に進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

渡邊会長 視察について感想をありがとうございました。それでは②の南牧村における小中一貫教育の姿に移りたいと思います。事務局、説明をお願いします。

事務局井出次長 資料の3ページをお願いします。ただ今、佐久穂小中の感想の中に既に小中一貫教育の違い、義務教育学校なのか小中一貫型なのか出ていますが、改めて確認ということで、こういった説明するのは最後にさせていただきますが、小中一貫にはこの3つ、施設分離型、施設隣接型、施設一体型があるということを再確認させていただきます。施設一体型には、①と②があり、①は佐久穂小中学校と同じ小中一貫型小中学校で、同一敷地に小学校と中学校が一体的に。小中一貫教育としては、9年間一貫した教育目標、または9年間一貫した系統性確保するというものであります。組織的には、小学校と中学校は別組織でありますので、それぞれの学校として存在するものでございます。ただし、こういった形態で作っておけば、将来的には義務教育学校へ移行することは可能であるということでございます。②の義務教育学校は、皆さん現実的には見ていないわけですが、例えば佐久穂小中学校であっても運営的には義務教育学校へ

移行できるということで、同一敷地にあって9年間一貫した教育目標、系統性の確保というのは同じものでございます。ただ違うのは義務教育学校は1つの学校として一人の校長先生による一つの教職員組織による学校運営がされるということでありまして。義務教育学校であれば、中学校から小学校への乗り入れ授業であったり、5年生辺りからの教科担任制であったり、4-3-2だとか5-4にするとか学年段階の区切りも柔軟的にできるというものでございます。皆さんに確認ということで見ただけであればと思います。説明は以上です。

渡邊会長 ただ今、南牧村における小中一貫の姿が2通り説明されたわけですが、南牧の小中一貫について、どういう姿がふさわしいか意見がありましたらお願いします。

片桐勝則 委員 委員長、お願いします。議員の片桐です。学校づくり委員会の答申では、統合して将来的に小中一貫という答申の中で、小中建設検討委員会が立ち上がって集まって検討しているわけでありましてけれども、今子育て真っ最中のPTAの皆さんや保育園の保護者の意見をお聞きしたいと思うのは、私の子どもが小中学校の頃は、特に中学校は小泉首相の時代で特区というのがあって、南牧の中学校が40人を割るという時に2クラスになるようにやってくれないかという声があって、少人数学級で40人以下でも2クラスに分けて運営するという中で子ども達は育ってきました。今は逆に人数が少ないから、小中学校の保護者や保育園に通われている保護者の今の学校環境について、こういう問題があるというような具体的な意見があったら聞かせていただいて、そういった問題なり課題を解決するためにやっぱり小学校は一緒にした方がいいんだとか、あるいは小中一貫がいいんだとか判断の材料になるんだと思うんで、そういった意見があれば聞かせていただきたいと思います。

渡邊会長 他にありませんか。

林副会長 先ほど北小のPTA会長さんがハード面について積極的な検討をお願いしたいというような話があったし、教育長の話の中にも小中一貫校か義務教育学校かということについては、先生方を交えたプロの人達を交えた専門部会で検討していただいたらどうかということで、南牧村における小中一貫教育の姿について討論を進めていくということは専門部会に委ねていったらどうかと思っています。私の提案としては③番の学校建設地、建設時期ということに移って行ったら、私たちの見解もいい方向に見えてくると思いますがいかがでしょうか。

渡邊会長 ありがとうございます。ほかに。

井出邦彦 委員 今、片桐さんの意見、林さんの意見を聞く中で、私なりには片桐さんおっしゃる今子育てをしている親の意見を聞いてから小中一貫を決めればいいという話がありました。気持ちは分かりますが、総意的には3番の、老朽化してきて新しい学校を作る急を要するわけだと思います。その中で一番先に一禎君が言いましたソフト面は後で当てていけばいいんだ、その時に片桐さん言われた親の意見を入れながらソフト面の内容に注意していけばいいと思います。とにかく建設地を早く決めて、早く着工まで持つ

て行かないと、今の小学生の学年がどんどん上に行ってしまう。昨年、学校づくり委員会に1年間苦勞してもらいました。またそれを小中一貫どうしますとやっていると、時間の無駄になると私は思います。いかがですか片桐さん。

片桐勝則 委員 私はそういう意味合いで言ったんじゃないで、せっかくこういう組織ができて意見を言う場があるので、もちろん昨年、半年かけて学校づくり委員会でやった内容について議事録等読ませていただいて承知しているつもりでいるんです。その出した結論について云々言っているんじゃないで、ここに集まった皆さんで学校づくり委員会に関わった方々は三分の一ぐらいですね。議会も含めて保護者の皆さんも新しいメンバーで組織されているわけだから、学校づくり委員会が出した結論について今の現状と皆さんが抱えている課題と合致する部分があるのであれば、そこを再確認の意味でもご意見があれば言っていただいて前に進めたらどうかという意味で言ったのであって、今から振出しに戻ってやれと言った意味ではないつもりでいます。

井出邦彦 委員 私の誤解ということですか。

高見澤俊彦 委員 議員の高見澤です。私は、旧八千穂町長の佐々木定男さんと何回かお話をさせてもらう機会がありました。佐久町と八千穂村と分かれていたんですが、最初は佐久町だけでやろうという計画があったそうです。八千穂とは当然離れていたの。そうしたら八千穂の方が積極的に、それは困る、私達も一緒に今の佐久穂中学に私達も参加させると、積極的にやってもらいたいという意見が八千穂の方から出たそうです。そして佐久穂が、佐々木前町長の下で一気に統一の小中学校を進めることができたそうです。参考までに言いましたがそういうことを前町長からお聞きしています。

渡邊会長 はい、どうも。ほかに。はいPTA会長。

嶋崎一尚 委員 こないだ佐久穂の小中学校見させていただいて、施設一体型の学校で個人的にはそれでいいと思います。義務教育学校がどうでもいいというのであれば、そっちに移行することも可能ですので、ただ南小のPTA会長おっしゃったようにハードどうするのかということだけ重点的に議論させていただいて、建設地はよく分かりませんが、まずは施設一体型の小中学校という形で進めていただきたいというのが個人的な意見でございます。義務教育学校になった場合、一番は教員免許小中両方持っていないといけないということ。はたしてそれだけ先生がいるんですか。異動がある中で人材を確保できるんですかということと、学校の中に子どもが少ないものですから、先生が1人でも多い方がなんとなくいいような感じがします。そういったことで施設一体型という方向で進めていただきたい。但し注意していただきたいのは、6才7才の小さい子どもと14才15才の大人のような子どもと一緒にいるわけですから施設面では相当気を使っていただいて、かけるものはかけていただきたいというのが個人的な感想です。

渡邊会長 はい、ありがとうございます。ほかに。

新海一禎 委員 二人で話していてもしょうがないので、他の人にも施設一体型がいいのかもしくは封書でも、今日来ていない人でもどんな意見が出るか聞いてもらった方がいい

と思うんですよね。個人的な意見でかまわないから。それかここに出席している人、みんなに聞いてもいいと思うんですけれど、分離型、隣接型、一体型がいいのか、そこから決めないといけないと思うんですよね。僕も嶋崎会長と同じ意見で、見学して勉強した中でいろんなメリット、デメリット考えられると。子ども達へのメリット、デメリット、先生方へのメリット、デメリット考えると施設一体型がいいと。あと佐久穂の例でオフレコと言ったんですけれども、何千万円削減ができています。そこの辺も大きいですよ。結局、効率がいい運営ができていますということですよ。それも含めて施設一体型がいいと。ちょっと見ていただきたいのは、佐久穂教育というこれの2ページ目、8・9年の左側に、小学生の隣で中学生が掃除、が目標にと書いてあったんですけれども、中学生は無言清掃だということだそうです。確かに中学生は黙って黙々と掃除をしていました。その横で小学生がしゃべってからんでいたんですけれども、そういう上級生が無言で掃除をやっている姿を小さい子たちが見ると。そういう姿ってすごくいいかなと思います。その右上に、中学生が小学生の手を引いて登校という写真がありますけれども、これ姉妹じゃないそうです。姉妹じゃない上級生が下級生の手を引いて登校したりすると。そういう部分、すごく情操教育にいいのかなと。それには施設一体型のいい学校がいいのかなと気がします。僕は質問でも上げたように、4-3-2型、佐久穂もそうなんですけれども、表向きは6-3型。実は中身は4-3-2なんです。そういったいろんな形ができるのが一体型の小中一貫校じゃないのかなという気がします。その時に建設に関わった佐藤さん元校長、教科担任制を5・6年生に用いていると。なぜかという掛け算したりするとき、ミカンやリンゴを使ったりというレベルでなくて、5・6年生になると算数もかなりグレードが上がって、頭の中で整理して考えなければならなくなったり、今の体育もそういうレベルであると。だから教科担任制が必要だと。それは中学校の先生が関わったりするんですけれども、専門性を持った先生が関わることによって、子ども達を導きやすいのかなって気がします。それには先生達の移動の時間を減らした方がいいし、先生たちのメリットも考えると施設一体型のが望ましいのかなと私的には考えています。

渡邊会長 はい、ありがとうございます。意見もだいぶそれぞれの方が小中一貫で行くという意見が大勢を占めたわけですが、ここで事務局から提案をしたいと思いません。

事務局井出次長 それでは、ただいま議論の中で委員の皆様方には、小中一貫教育の種類、内容をご理解いただいたものと思っております。これから先なんです、私、第1回目の会議の時の資料の中に、いくつか専門部会を設けて、4つの例として1つは小中一貫教育の具体的な導入を検討する部会、それからハードの話になりますが施設を検討する部会、それからスクールバス等の通学手段の子育て環境を検討する部会、それから地域参画による学校運営をどうしたらいいかという部会、4つの部会を作ったらどうだろうというような話をしました。その中に、小中一貫教育導入検討部会というのがあるわけ

ですけれども、今後は、小中一貫の何がいかと結論を出すのではなくて、この専門部会を設置して、より学校長はじめ教頭先生や教務主任と言った教育者を入れて、もちろん保護者やPTAも入っていただいて、さらに検討していったらどうかと考えております。いかがでしょうか。

渡邊会長 ただ今事務局から、これから小中一貫について専門部会を作って協議していくということでございますけれども、それについて何か。そういう方向でよろしいでしょうか。

興水昌代 委員 南小PTA興水です。私は今回の視察行きたかったんですけど、都合で行けなくて、行ってきた保護者の方から話を聞いて、佐久穂の検討委員会では、先生が立ち上げの頃からずっとそこに関わって、今も教育委員会にいて、ちょくちょく学校の様子見に来てくれたりとか、今もサポートしてくださっているみたいで、そういった体制はいいなどその方もおっしゃっていらっしゃったんですけど、私もそういうふうに長い目で見てサポートしていただければありがたいと思います。野辺山区の支部総会の時に、小中一貫についての説明会というか勉強会をやってほしいという声が上がった時に、その場にいた保護者の方々は皆さんがピンと来ていないというか、どこか他人事みたいな雰囲気を受けたので、決定はここでしていくにしても全保護者の方に自分のことの話なんだって意識を持ってもらうことは大事だと思うので、説明会とかを是非やっていただきたいです。

渡邊会長 渡邊会長 はい、ありがとうございます。他にこの点についてありませんか。

井出正吉 委員 海尻の財産区区長の井出です。これまでいろいろ出たと思いますが、いよいよこれから部会を作って専門的に目的に沿って進めて、それを各部署で詰めたことをみんなの前で発表していただいて意思統一をしていただければ一番いいじゃないかと。これだけ多い人達の中で専門的なこととか部会がなければ、なかなかうまく理解したり結論を持っていくようなことができないと思いますので、是非早急に作っていただきたいと思うんです。

渡邊会長 はい、ありがとうございます。海尻財産区議長から出まして、これから専門部会を作って専門にかかっていくということで。他にありますか。PTA会長。

新海一禎 委員 部会のことが書いてある紙を見ると、部会編成の前に中間報告をする、その前に建設地、建設時期の検討と書いてあるんですけども、建設地、開校時期とかそこまで全体協議ですよね。資料の委員会での検討事項、3番の開校時期までの全体協議、中間報告。その4番以降を専門部会設置と書いてありますよね。まだ1番しか終わっていないです。2番3番は協議してないですよね。

事務局井出次長 これから2番3番の協議をしていただくのは当然ですけども、とりあえず小中一貫の種類、細かいことは部会の方にさらに時間をかけてやっていただくと。この本会はこれから2番3番に取り組んでいただくという意味です。

新海一禎 委員 じゃあ、部会の話はまだあとでいいじゃないですか。確認事項だけですよ

ね、専門部会はまた後でやりますという。その話は置いて、まず2番3番行きましょう。

渡邊会長 それでは③に移りたいと思います。まず学校建設地、建設時期について意見のある方はお願いしたいと思います。

事務局井出次長 会長。資料を配らせていただけますか。

渡邊会長 時間的にそこまで行けるか分かんなかったから遅くなりましてすみません。皆さん資料行きましたか。それでは事務局。

事務局井出次長 それではお願いします。建設地、建設時期となれば想定される事柄ですが、建設地としては現在ある①は北小、②は南小、③は中学校、④は全く新しく用地を取得して建設するというのが考えられるのではないのでしょうか。また、建設時期とすれば、①スケジュール的に可能な限り早くか、あるいはもう少し児童数が減少するのを見極めつつやるのかが考えられると思います。それで建設候補地として4点挙げさせていただきました。確認の意味でそれぞれのいい点、悪い点と言いますかよくない点ということでお願いしたいと思います。まず北小です。いい点は、比較的温暖であって、J Rの駅や役場、郵便局などの官公庁が近いということが言えると思います。よくない点とすれば現状の敷地が狭くて、西側は山林が非常に高くて造成は困難だと思われ。すでに変形な地形であります。次に南小であります。いい点は非常に広い土地で平坦地であります。また敷地から雄大な八ヶ岳が見られるということが魅力的だと思います。それからスケートクラブに入られる方が多いので近くに帝産のスケート場があるということがいい点だと思います。3キロ以内の方は徒歩で通学していただいておりますので徒歩通学の児童数が一番多い点がいい点です。よくない点としては、やはり冬の大変厳しい自然環境があると思います。それから北小のいい点で上げましたが、駅、役場、郵便局については遠いと。それからさきほど教員免許云々の話ありましたが、南小は佐久地方からの通勤をされる先生方にとっては通勤するには困難であると思います。その分、職員寮は整備していかなければならないことになります。3番目は中学校に造った場合。いい点では、回りが山麓に囲まれて静かで穏やかな気候であります。よくない点としますと、敷地が狭く、また北側や西側は山林であり、そこに造るとなるとかなりの造成が必要になります。現状でも、校庭、校舎がある所、専科教室がある所、高低差がある地形でございます。更に4番の新しく用地を取得するとなると、理想的な施設設計ができることになります。しかし、その用地を取得するまでには、たいへんな長い時間を要したり、高額な取得費用が必要となることは事実でございます。以上が4つの考えられる候補地のいい点、よくない点です。確認のために申しあげましたが、よろしく願います。

渡邊会長 ただいま事務局から資料について説明がありました。建設地、建設時期どちらでも構いませんけれど、これについて意見のある方お願いしたいと思います。

江川尚友 委員 だいたい建設地は4か所ということで、小中一貫型を前提としていらっし

やるだと思っんですけれども、南牧村でそれを作る場合にどれくらいの面積が必要になるのかということと、4番は別としても1・2・3の実際の大きさがどれくらいか教えていただければと思います。

事務局井出次長 具体的な面積を申し上げることは現状ではできません。本当にざっくりした話しかできません。たとえば校舎は2階建てにするとか3階建てにするかによって校舎の面積変わってきますし、校庭は2つ必要だとか体育館は2つとかプールはどうするだとかによって変わってきますので、最低必要な面積というのは今申し上げられません。統合となった場合に付帯施設としては、全職員が入れる教職員寮が必要であろうし、学校給食調理場も合わせて作り、それから学校づくり委員会の答申にもありましたように、その他の公共施設を複合化することも考えられますので、何ヘクタールという単位になろうかと思いますが、はっきりは申し上げられません。佐久穂小中の資料を見ていただきますと、ざっくり5ヘクタールだったと思います。それよりは小さいだろうと思います。具体的にこんな校舎の配置でというのは、1番から4番までで違ってきますし地形に合った校舎にしていかなければいけないことであります。敢えて言えば3ヘクタールは必要だろうと。では今何小は何ヘクタールあるかということは次回に準備してきたいと思っています。

江川尚友 委員 どうもありがとうございます。

興石剛 委員 同じような話になるんですけれども、今の北小の配置図、こんな状況に北小は建っていますよ、配置図みたいなものがあつたりすると、見るのに分かりやすいかなと思います。佐久穂の小中学校、見学した時に、施設一体型、体育館が2つあつたりとか音楽室だけでも3つ4つあつてかなり大きな面積が必要だなと感じました。佐久穂と南牧だと全校の人数だと規模が違ってくるので、実際同じ話にはならないと思っんですけれども、かなり大きな施設が必要なんじゃないかなと思いました。場所がどこになるかはわからないですけれども、それを建てるにあたって、本当にその場所にその面積の物が建つのかなって思つたところです。次回に配置図のようなものを用意していただければと思います。

今井澄江 委員 北小の今井です。最初にいただいた資料で全国の小中一貫になつたものが紹介されたプリントがありましたけれど、南牧が参考になりそうな規模の学校があつたり、去年の学校づくり委員会の方が佐久穂以外に視察に行かれたところで参考になるようなところがあれば教えていただきたい。

井出教育長 最初に資料で全国のモデル的なものをプリントしてお渡ししました。次回までに、うちの学校が100人から200人くらいのところがあると思っるのでそこをピックアップしましょうか。

今井澄江 委員 人数だけなら私が見させていただいて、何校かは参考になりそうなところあるかなと。その他でもこのプリントにないところでも視察に行かれて、ここは参考になるなというところがあればぜひ教えていただきたいと思っています。

井出教育長 昨年の学校づくり委員会では、佐久穂町、それから義務教育学校の信濃町に行きました。やはり規模はずっと大きいです。なかなか近くではないです。

今井澄江 委員 そうするといただいたプリントの中から参考にしていって感じなんですか。分かりました。

事務局井出次長 お配りした小中一貫の先行事例という資料の1番に福島県郡山市の湖南小中学校。これが小学校133人、中学校72人です。現状は南牧のが多いです。児童生徒数の推移をお配りしてあります。平成33年か、分かっている中で小学校が100人、中学校が50人になるよという話しをしていますので、そのくらいの規模になっていくと思います。ですので一番参考になるのは湖南でしょうけど、結構ここは広い敷地なので横並びの校舎で、造り的には佐久穂のような小中学校の並びになっています。こういった規模の物を南牧でも作れば一番理想的ではあると思います。次回本当にざっくりした仮定の絵を作ってお示しできればと思います。

渡邊会長 はい。ほかにありませんか。

高見澤正洋 委員 議員の高見澤です。具体的には場所が一番問題になると思うんですけど、やはり教育環境だけ考えていると難しいと思うので、私は将来的に村をどう持っていくかというと、やはり野辺山が南小区。その辺はこれから発展的になっていくんで、ある程度教育関係ですと筑波大、信州大学がありまして、そういうところ攻めの行政でやっていく。私は新しい用地を取得した方がいいと思ひまして、場所はこの中央公民館付近に新しい、住民のコミュニケーションとして公民館いろんな施設が古くなっていますので、それを集約させることによって駐車場が併用できる。この場所のいい点とすれば、グラウンドを全天候型で作ったりして、前の中学校のグラウンド、北小のグラウンドにプラスされるんですね。あと駅に近いってことが、これから中学校を考えるとクラブ活動とかいろんなところで、佐久穂町の場合は合併して小中になったんですね。あと小海、川上、両相木というのは教育関係でこれから協力していかなければいけないと思うので、そうすると5町村の中心的なところになりますので、その辺がいいと思います。あとキャンパスとして国道、小海線から見えるようなキャンパスにするってのは結構いいかなと思います。あと病院が山梨ってことにならないんで、最短では小海町の佐久病院の分院、診療所が近いということと、あと年間通してグラウンドを使うことがクラブ活動に多いので、時期的に長い期間使えることが利点になってくると思います。

渡邊会長 はい。ほかにありませんか。

林副会長 副会長ですが、発言させていただきます。大分話が煮詰まってきて、具体的にどの学校をモデルにしたらいいかとか、どういう場所がいいかとかになってきたと思います。事務局で次の9月26日までに、例えばこの小学校だとかこうだとかの資料を用意してもらふことにして、どういう資料を用意してもらったら次の会合が実りあるものになるかと皆さんのご意見を伺いたたいんですが。

渡邊会長 何でも結構ですけど、他の用地とか何かありましたらお願いします。

井出正吉 委員 結論から言いますと、新しい場所に造った方がいいと思います。今ある学校のところを利用するということは、今の建物を壊して仮設の校舎で勉強しなければならないということもあります。どうせ作るなら広いところへ理想的な学校を作るということは相当なお金がかかりますから、それだったら新規に新しいところへ作った方がいいと。壊して移転してだと、それだけでただ捨てる金を使わなくちゃいけないと。財政的にいろいろあると思いますが、小中の学校だけのことを考えて敷地を設ける。それとも学校づくり委員会では、小中だけじゃなくて、できれば村民も集えるところ、学校に参加できるような施設もいいじゃないかという意見も出ました。諸々のことを考えると新規の場所で理想の学校を作って地域と学校が結び付くような施設にさせていただくということをお願いしたいと思います。

渡邊会長 ありがとうございます。他に。

新海一禎 委員 造るとなると村の一般財源のみなんですか。国の補助金とかはないですか。

渡邊会長 教育長。

井出教育長 財源ですが国の補助金があります。

新海一禎 委員 どのくらい。

井出教育長 試算はまだしておりません。

新海一禎 委員 佐久穂の場合は、確か合併特例債と、計算したんですけれど、佐久穂は総工費 58 億の中で国の補助金が 19 億で 33%、合併特例債で 40%オーバー、町の一般財源が 15%くらいです。合併特例債はないということですよ。

井出教育長 合併特例債は当然ございません。ただ佐久穂にない辺地地域ですので、辺地債という起債を起こして、スクールバスなどで使っていますが、これ有利な起債です。学校では教員住宅、調理場はその対象になります。ですから佐久穂にはない財源もあるということですから、佐久穂のように合併特例債がありませんから一般財源ベースではかなり村から支援いただいて作らなければいけないかなと思っています。ただ学校規模は佐久穂から落ちます。

新海一禎 委員 だいたい予想として何割くらい。読めないですか。では何億くらい出せる。

井出教育長 この次の宿題にさせてください。

林崇介副会長 副会長から発言させていただきます。学校づくり委員会の時に、いったい村で費用を拠出できるのかということは、私達の最大の関心事でございました。総務課長、そして教育長ですが、そのお二人に聞いて大丈夫という話をもらっています。それから中間報告で委員長として村長と費用のことについて伺いましたが、彼も、大丈夫ですと言っていましたので、具体的に何億ということは私も言えませんが、その点は任せていいのではないかと思います。以上ご報告申し上げます。

新海一禎 委員 あんまり聞かなきゃよかったと思います。

嶋崎一尚 委員 では大丈夫ということなので、削ることは多分、これは無理だ無理だと削ることもあるでしょうから、極力、保護者の方は考える必要はないと思います。お金の

こと考えるのは、こっち側の人達で一生懸命考えればいいもので、他の人は理想論をどんどん語った方がいいかなと気がします。一番気になるところでありますけれど、自分の財布から出るわけじゃないので。副会長も村長も大丈夫だということなので、どんどん討論で進めていただきたいと思います。

渡邊会長 ほかに。

今井澄江 委員 理想の話をさせていただきます。さきほど中央公民館の場所がいいじゃないかとお話出しましたが、駅の近くというのはとてもいいかと思えます。図書館があるのが野辺山の一番奥のはしばみになってしまうので、中学生とか高校生とか使いたい場合に、なかなか自分の力で行くのが難しい状況だと思うので、この辺りにも地域の方も使えるような、いろいろと利用価値が増えていくと思えます。それとさきほどの候補地の中で、中学の悪い点のところ、造成が必要というところですけども、どの程度の造成ができるのか、もしお分かりになれば教えていただきたいと思います。

井出教育長 次回までの宿題にさせていただきます。

今井澄江 委員 お願いします。

渡邊会長 ほかにございませんか。

興石剛 委員 新たな場所となった時に、私どもここがいい、そこがいいと思うんですけども、実際にそこはちょっとむずかしいとか、そういう話もあると思うので、もしこういった候補地があるよというのがあれば、次回出していただけると選びやすいのかなというのが。大変難しいと思うんですけど。

井出教育長 いろいろありがとうございます。次回の会議にどこまでできるか、私もビビッているところがございます。なるべく沿えるように皆さんの判断になるような資料を用意したいと思います。いっぱい宿題が出て今事務局も青くなっているところがございますけれども、次回までには用意できるものは用意したいと思います。不十分になってしまうこともあるかと思いますがご勘弁をお願いしたいと思います。

新海一禎 委員 今、高見澤議員から中央公民館付近という話もあったんですけども、数年前の台風の時に小海線が橋まで埋まったことがあるんですよ。避難勧告が出された経緯があります。そういうこともあるので、確かに貴重な意見だと思いますが、いろんな候補地があります。例えば広瀬の原だとか、海ノ口市場地区だとか。板橋地区とかいろんな地区があるわけです。だからいろんな場所で考えたほうがいいと思います。私は冬季の厳しい自然環境に住んでる新海ですけども、でもそれは乗り越えられる環境だと思います。だから何を最低限、何を条件に選ぶか。厳しいからやめとこうよじゃなくて、乗り越えられるはずだから、駅が近いからいいじゃなくて、野辺山だって駅ですから。野辺山だって簡易郵便局あります。だから何を条件にするか、何をクリアできる優先事項とするのか。まずそこからだと思うんです。確かに新しい土地を取得して作った方がいいと思います。ですけどそうすると、民家も近いとこだとか、バス通学でアクセスしやすいところ考えると、いずれ畑は潰れることになるかと思えます。そうすると住

民の理解は得られるのか。中部横断道でさえ、かなりの反対のある。そういうことも含めて、じゃあどういう条件が必要なのか。最低クリアすべき条件とか、優先すべき条件とか。そこら辺を宿題にして。例えば海ノ口に作ったらどうなのか。上に作ったら、下に作ったら、そういうことも示していただくと。このいい点、悪い点だけだと、どうしましょうねとなっちゃいます。こう考えると、まず南小の校庭にボーンと作って、今度、旧校舎側を更地にして校庭にしてもいいのかなっていう単純な考えができますけれどね。施工方法もあると思いますけれども、最低どれくらい面積も必要なのか、試算も必要だと思います。その辺も含めて提供をお願いします。

興水昌代 委員 下も上も含めて、上も厳しい環境ですけど、それがよく働いている部分もちろんあるんで、上に建ったら北小の保護者もそうだと思うんですけど、もし中央公民館となったら南の保護者も不都合な点もたくさんあると思うので、候補として上も下も考えて欲しいです。よろしくお願いします。

渡邊会長 いろいろ本当にありがとうございました。今日の討議、①から③まで来ました。26日までにできるだけ資料を用意して、皆さんにお渡しすることにして、皆さんも本当に真剣に候補地、時期について考えていただいて次に繋ぎたいと思います。よろしくお願いします。それではまた26日にお申しまして今日の。

◎閉会の宣告

林副会長 皆様、最後のところで非常に盛り上がった会議になったと思います。次回9月26日が、議論が楽しみなニーズになってまいりましたので、事務局にはその間、奮闘努力して資料を次の会合に備えていただきたいと思います。それでは長い間、皆様ありがとうございました。終わりたいと思います。

閉会 午後8時45分